

『人権一般に関する間接的指導のタイプ』

明治南小学校第5学年体育科学習指導案

1 単元名 ネット型ゲーム

2 単元の目標

- (1) 友達と共に、ボール運動の楽しさや喜びを求めて進んで取り組もうとする。(関心・意欲・態度)
- (2) チームの特徴を知り、作戦を立てたり、ルールを工夫したりしている。(思考・判断)
- (3) ソフトバレーボールについて、簡単な作戦を生かして、ゲームをするための技能を身につけている。(技能)

3 単元観

本単元は第5学年及び第6学年〔Eボール運動〕 イ ネット型

(1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その技能を身につけることができるようにする。

イ ネット型では、簡易化されたゲームで、チームの係による攻撃や守備によって、攻防すること。

に基づいて設定したものである。

これらの学習活動を通して、ルールの工夫やチームで作戦を立てることによって、チームの一人一人がゲームに参加し、ゲームの楽しさを味わうとともに、互いによさを認め合い、教え励まし合うことを通し、一人一人が活躍し、楽しめる活動の場とすることをねらいとしている。

4 指導計画 (総時数 6時間)

- (1) 4年生のときのルールで試合を行い、問題点を考える。1
- (2) みんながゲームを楽しむために、ルールの問題点を改善する。
改善案を基に試合を行い、クラスルールを作る。4 (本時1/4)
- (3) クラスルールで試合を行う。1

5 人権教育との関連

友達と共に考え、協力しあって問題を解決することができる。

6 本時の指導

- (1) 題目 ソフトバレーボール「一人一人がかつやくしよう！」
- (2) ねらい
 - ・人数やコート大きさに合わせて、一人一人が活躍できるようルールの工夫をすることができる。(思考・判断)
- (3) 人権教育の視点

ゲームでみんなが活躍できるルールを工夫していく中で、友達と共に考え、協力し合って問題を解決することができる力を育てる。(実践力)

(4)展開

◎人権教育上の配慮

具体目標	学習活動	支援・指導上の留意点・評価 (◇)	資料・準備
	1 準備をする。 ・ネットの準備をする。 ・準備運動をする。	・手早く準備をできるように、分担して作業するように指導する。	・ソフトバレーボール ・バドミントン用ネット・支柱

<p>・学習課題をとらえることができる。</p>	<p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>みんなが楽しめるようにルールを改善しよう。 (クラスルールづくり)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ラリーが続かない。 ・1回で返さない。 ・みんなが触ってから返す。 ・時間を長くする。 ・上から打たない。 ・サーブは近くから。 ・ボールを変える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトバレーボールの基本的なルールで行った試合で、うまくいかなかったことを基にして、チーム毎に、ルールの改善案を考えさせる。 ◎みんなが楽しめることやボールに触らない人がでないようにする方法を考えさせる。 ・チーム毎に、一番効果があると思う改善案を一つに絞らせる。 ・今回決めたことが最終決定ではなく、次回もルールの検討をし、クラスルールを作っていくことを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記録用紙 ・筆記具
<p>・ルールの工夫をすることができる。</p>	<p>3 改善案を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各チームの改善案を基に、ルールの改善をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各チームの改善案をまとめ、クラス共通のルールにする。 ◇観察・発表により評価する 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動黒板
<p>・積極的にボールに触れることができる。</p>	<p>4 チームの作戦タイムと練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポジションの変更 ・変更されたところの練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・変更したルールの部分を中心に作戦を変えたり、練習をしたりするように声かけをする。 	
<p>・積極的にボールに触れることができる。</p>	<p>5 改善ルールで試合を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ボールに積極的に触れない児童がいるチームには、全員がゲームに参加できるように声かけを行う。 	
<p>・ゲーム内容を振り返ることができる。</p>	<p>6 改善ルールの良い点と問題点を考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の良かったところや、気づいたところも発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表された問題点を基にして、次回もルールを改善していくことを伝える。 ・がんばっていた人やチームプレイを心がけていた人を発表させる。 	
	<p>7 後片付けと整理運動をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分担して後片付けするように指導する。 	

(5) 考察 (○成果・課題)

- ルールの変更点：ネットをできるだけ高くして、簡単にスパイクできないようにする。
サーブが入らないので、ネットの近くから下手投げで行う。
ラリーを続けるために、レシーブの代わりにキャッチしてもよい。

(ただし、キャッチしたところから真上にボールを投げる)

- 正式に近いルールでは、サーブが入らない・レシーブが入らない等、自分達の課題がグループで話し合われ、話し合いを基に、改善案を協議することができた。
- より楽しくプレーするためには、どうしたらよいかを友達の意見を発展させながら考えていくことができた。
- ・話し合い活動と活動量の両立が難しく、話し合いに集中するあまり活動量が少なくなってしまった。
- ・自分達の体育的な技能を正確に把握してない児童が多く、何ができて何ができないのかあいまいなままの話し合いも見られた。